

高温登熟対策の徹底をお願いします！

宮城県米づくり推進本部

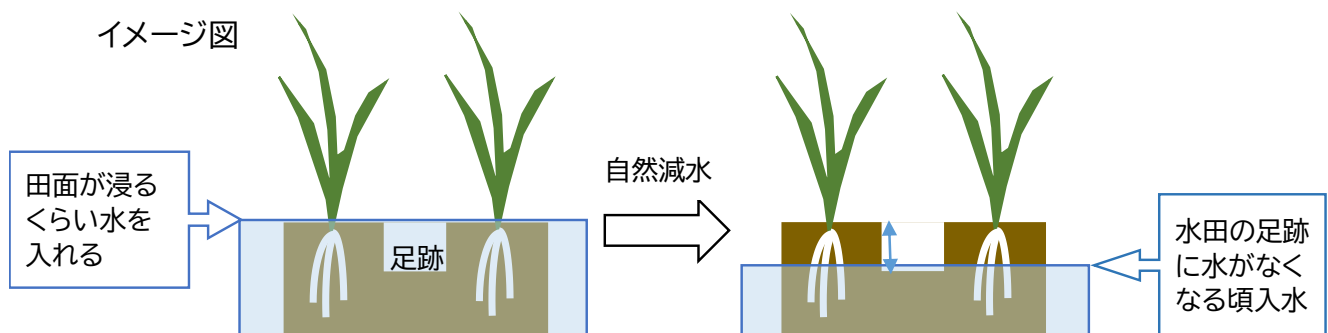
令和7年8月1日

- 県内の水稲は7月29日現在44.5%のほ場で出穂期を迎え、すでに県全体の出穂期に達したと思われます。
- 7月31日発表の東北地方の1か月予報によると、向こう1か月(8/2～9/1)の気温は高く、特に期間の前半は気温がかなり高くなる可能性があります。
- 降水量が少ない状態が続いています。登熟期間の高温登熟対策としても有効なほうすいかんりな飽水管理を徹底しましょう。
- 斑点米カメムシ類が多く発生しています。「穂揃期」と「1回目防除から7～10日後」の2回防除が基本です。ほ場をよく観察し、適期に防除を実施しましょう。

○飽水管理 限られた用水を有効に活用しましょう。

- ・水田の足跡に水がなくなったら、または番水のタイミングで入水し、表土が十分湿ったら止水・自然落水する方法。
- ・間断かんがいより土壌が酸化的に保たれ、根の活性が高まる。
- ・湛水管理に比べると夜間の稲体の温度が下がりやすいため、乳白粒や胴割粒の発生が軽減できる。
- ・落水は出穂後30日以降とし、登熟歩合の向上を図りましょう。

イメージ図



！注意！

フェーン現象などの異常高温の発生の恐れがあるときは、可能な範囲でかん水し、ほ場が乾かないようにしてください。土壌表面に水がない状態でフェーン現象に遭遇すると、不稔や品質低下の危険性が高まります。

○斑点米カメムシ類対策について

今年は斑点米カメムシ類の発生量が多く、県病虫害防除所では、7月18日に「令和7年度発生予察情報注意報第3号」を発出し、注意を呼び掛けています。また、今年は出穂期が早まったこともあり、斑点米カメムシ類の発生時期と出穂時期が重なっています。適期防除の徹底をお願いします。

【防除適期の目安】

出穂期	1回目防除 (穂揃期)	2回目防除 (1回目防除から7-10日後)
7月30日頃	8月2日頃 (出穂期から3日程度)	8月9日～8月12日頃

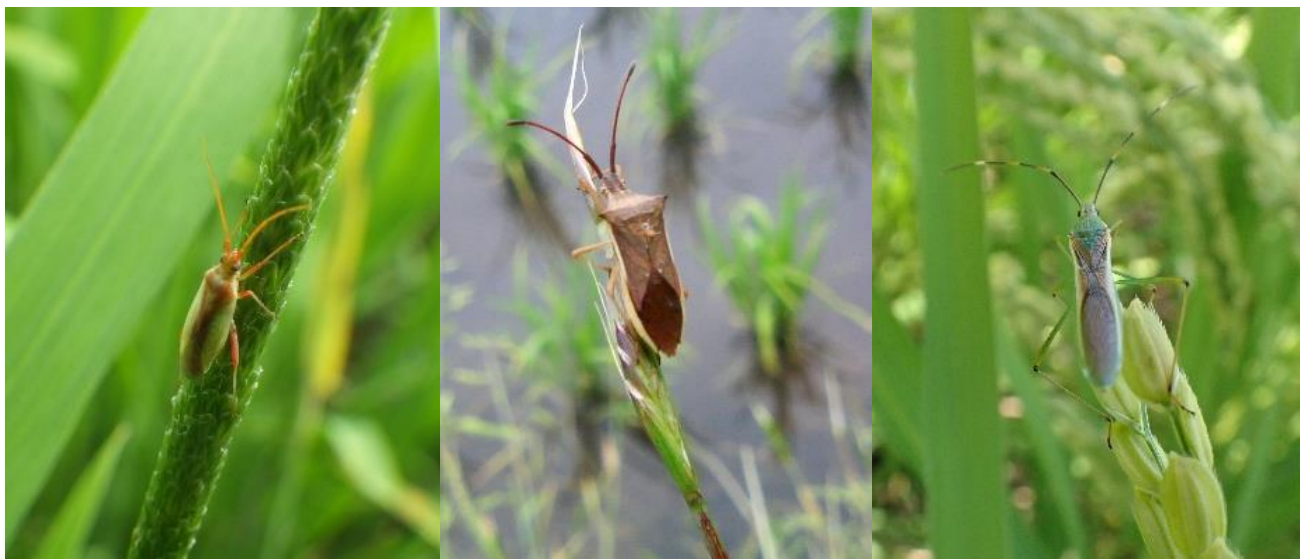


写真 アカスジカスミカメ

ホソハリカメムシ

クモヘリカメムシ

(提供:いずれも宮城県病虫害防除所7月18日発行 令和7年度発生予察情報第3号より)

○熱中症にお気をつけください！

厳しい暑さが続きます。農作業時は水分補給や休憩時間を十分に確保するなどの熱中症予防と健康管理に十分注意してください。

特に、「熱中症警戒アラート」が発表されている日は、熱中症の危険性が極めて高いので、のどが渇く前にこまめに水分補給する、朝や夕方に作業を行うなど、いつも以上に積極的に熱中症の予防に努めてください。

宮城県では今夏の異常高温と少雨に対応するための相談窓口を設置しています

農業用水について → 宮城県農村振興課 (022-211-2864)

各地方振興事務所農業農村整備部

(<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/nosonshin/yousui07-madoguti.html>)

農作物の技術対策について → 宮城県農業振興課 (022-211-2837)

各農業改良普及センター

(<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/nosin/ijyoukouonsoudanmadoguti.html>)

